

令和 6 年度

岩 倉 市 自 然 生 態 園

生きものの生息調査報告書

令和 7 年 3 月

岩倉市

岩倉ナチュラリストクラブ

目 次

はじめに	-----	—2—
1 調査方法	-----	—3—
(1)場所	-----	—3—
(2)項目	-----	—3—
(3)期間	-----	—4—
(4)調査地点	-----	—5—
2 調査結果	-----	—6—
(1)水生生物	-----	—6—
(2)昆虫類	-----	—8—
(3)ほ乳類	-----	—16—
(4)鳥類	-----	—16—
(5)は虫類等	-----	—16—
(6)植生	-----	—17—
(7)水質	-----	—22—
おわりに	-----	—24—
資料	-----	—25—
資料1 水生生物の定量調査結果	-----	—25—
資料2 自然生態園で観察されたトンボの推移	-----	—26—
資料3 自然生態園で観察されたチョウの推移	-----	—27—
資料4 自然生態園で観察された野鳥の推移	-----	—28—
資料5 植生のコドラート調査	-----	—30—

は じ め に

岩倉市は、かつてこの辺りで普通に見られた生きものが生息できる環境の復元をめざして、平成8年（1996年）4月に自然生態園を開設し、その後、ここに生息する生物や池の水質などを定期的に調査し、環境の変化を監視・追跡している。その結果、池の中の水生昆虫の量は数年で大幅に減少し、さらにその後は個体数の多い種が年とともに交代していくといった変化が把握できている。

こうした調査の継続は、自然生態園の適正な管理に資するとともに、近年注目されるようになった生物多様性を守るためのデータの蓄積を図ることにもなる。

本年度も岩倉市の委託を受けて、岩倉ナチュラリストクラブが自然生態園の動物や植物などを対象にモニタリング調査を行った。

1 調査方法

自然生態園の生きものモニタリング調査を次のように実施した。

(1) 場所

自然生態園及び津島神社の区域（図1）

長年、水生生物の調査結果では、一定地点の底生動物を採集してきた。調査の結果にこの採集圧が影響している可能性が指摘されたため24年度には3地点を新たに追加したところ、それは採集による圧力が影響したためではなく、池全体の状況を反映した結果と考えられた為、今年度の定量調査も、A、B、C、Dの4地点とした。

(2) 項目

ア 動物調査

(ア) 水生動物の定量調査（底生動物コドラート調査）

1辺50センチのコドラート内の生物を採取し、種数、個体数及び乾燥重量を計測した。

(イ) 動物の定性調査

随時観察し、記録をとった。

- ・ 昆虫類
- ・ ほ乳類
- ・ 鳥類
- ・ は虫類など

イ 植物調査

(ア) 定点の植生調査（植生コドラート調査）

1辺1.5メートルのコドラート内の植生分布を調べた。

(イ) 植物の定性調査

随時観察し、記録をとった。

ウ 水質調査

定点を決め、池の水質（水素イオン濃度、溶存酸素量、化学的酸素要求量、りん濃度、窒素濃度）及び水温を測定した。

項目	測定法
水素イオン濃度（pH）	共立理化学研究所製パックテスト WAK-BTB
溶存酸素量（DO）	マザーツールデジタル溶存酸素計 DO-5509
化学的酸素要求量（COD）	共立理化学研究所製パックテスト TZ-RW-3
アンモニア性窒素（NH ₄ -N）	
亜硝酸性窒素（NO ₂ -N）	
硝酸性窒素（NO ₃ -N）	
磷酸性磷（PO ₄ -P）	

(3) 期間

令和6年4月1日から令和7年3月31日まで。

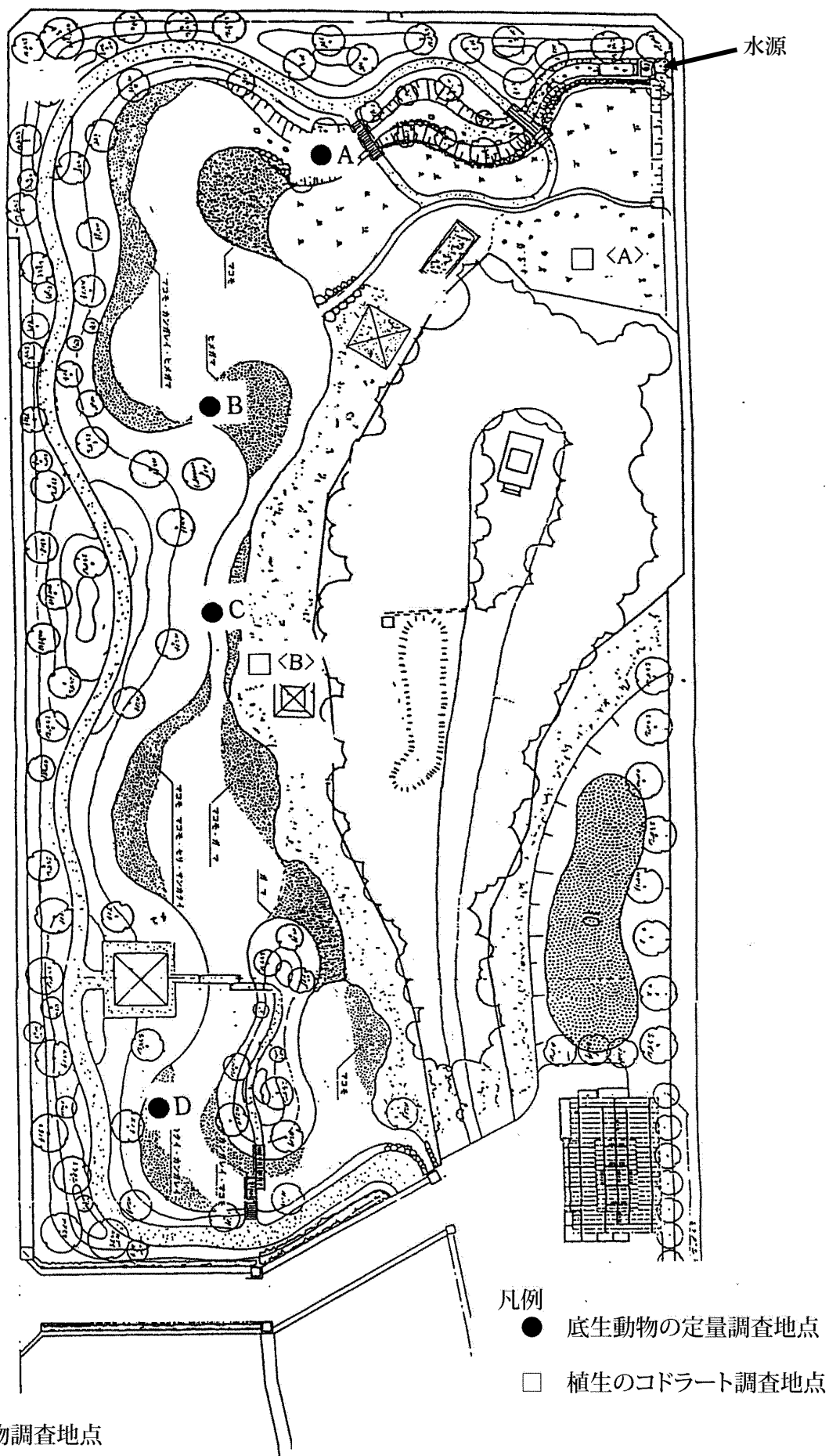
表1 調査日程

年 月/日	6年		7/19		9/15		10/6		7年		2/9	
	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
水生生物定量調査				○			○					
動物定性調査												
植物定性調査												
植生コドラート調査				○		○	○				○	
水質調査				○		○	○				○	

担 当	年間随時	岩倉ナチュラリストクラブ員					
調 査 日	7/19(金)	川口	暮石	柴田	三輪	福岡	
	9/15(日)	川口	暮石	松原	三輪	福岡	
	10/6(日)	川口	暮石	三輪	中島(2)	福岡	佐藤
	2/9(日)	川口	暮石	佐藤	三輪	福岡	松原

*川口義治 暮石三七 佐藤建一 柴田裕樹 中島賢一 中島輝樹 松原千靜子 三輪千秋 福岡澄江

(4) 調査地点



2 調査結果

(1) 水生生物

ア 定量調査

水生昆虫を始めとした池の中の動物（底生動物）の定量調査は、これまでと同様に夏季及び秋季に実施した。それぞれの調査日は7月19日及び10月6日である。

調査地点としては、これまでと同じ北池の地下水の入水路（A）、北池の南側（B）、連絡水路（C）、南池の西側（D）の4地点を選定した。

各調査地点に 50cm×50cm のコドラートを置き、肉眼で認められる生物（質重量で1 g 以上）を採集した。

これらの生物の乾燥重量を測定し、AからDまでの総重量を自然生態園における1 m²あたりの現存量として算出した。

調査の結果採取された底生生物は、夏季は 4 種 11.5mg/m²で、秋季も 4 種 1066.4mg/m²であった。

表2 底生生物の量

調査日	地点	種数	個体	重 mg	ザリ抜	
7 月 19 日	A	1	1	3.1	0	
	B	1	1	5.6	5.6	
	C	0	0	0	0	
	D	2	2	2.8	2.8	
	計	4	4	11.5	8.4	
10 月 6 日	A	0	0	0	0	
	B	2	114	358.6	336.9	
	C	3	61	542.0	499.5	
	D	2	28	165.8	165.8	
	計	4	203	1066.4	1002.2	

表3 水生昆虫の量

調査日	地点	種数	個体	重 mg		
7 月 19 日	A	0	0	0		
	B	1	1	5.6		
	C	0	0	0		
	D	0	0	0		
	計	1	1	5.6		
10 月 6 日	A	0	0	0		
	B	0	0	0		
	C	1	1	4		
	D	1	17	64.8		
	計	2	18	68.8		

1 年を通してコドラート採捕の水生昆虫は夏季にコマツムシ、秋季にコマツムシとユスリカ 2 種が確認できた。

水生昆虫以外は夏季にフリガマシヨコビとハミズ属の 2 種。秋季はカリヌエビ属の一種と、アメリカザリガニの 2 種。今期は貝類は採集出来なかった。アメリカザリガニはコドラート採捕では少なかったが、生息数が減っているわけではない。今期、10 月 12 日“トンボ池で遊ぼう”以降 1 月 12 日まで池干された。

表5 底生動物の経年変化

夏季

年度	種数	個体数	重量 (mg/m ²)	アメリカザリガニ (mg/m ²)	アメリカザリガニ 除外分 (mg/m ²)
H9	10	458	837.2	調査対象外	837.2
10	10	106	1,116.7	392	724.7
11	10	170	946.5	607.4	339.1
12	7	42	85.9	20.1	65.8
13	7	152	992.1	835.5	156.6
14	7	396	1,126.2	812.9	313.3
15	8	257	543.1	409.7	133.4
16	8	215	462.2	439.9	75.8
17	6	159	170.1	100.2	69.9
18	7	134	166.5	108.5	58.0
19	11	251	566.6	249.8	316.8
20	8	248	495.0	386.7	108.3
21	7	223	501.6	416.0	85.6
22	5	437	498.3	245.0	253.3
23	8	35	374.6	10.7	363.9
24	7	468	729.2	197.8	531.4
25	8	71	1540.4	105.7	1434.7
26	7	126	1477.9	150.6	1327.3
27	7	97	182.3	112.6	69.7
28	6	37	276.2	133.2	143.0
29	7	79	473.0	72.3	400.7
30	6	96	953.6	35.7	917.9
R1	5	81	1537.4	52.0	1485.4
2	4	21	1278.8	69.0	1209.8
3	4	24	703.0	43.7	659.3
4	5	29	160.9	0.1	160.8
5	3	41	373.3	0	0
6	4	4	11.5	3.1	8.4

秋季

年度	種数	個体数	重量 (mg/m ²)	アメリカザリガニ (mg/m ²)	アメリカザリガニ 除外分 (mg/m ²)
H8	10	121	237.7	調査対象外	237.7
9	13	249	535.3	調査対象外	535.3
10	16	1172	867.8	339.0	528.8
11	9	586	722.9	424.6	298.3
12	11	292	475.4	229.6	245.8
13	10	133	1,430.9	1227.1	203.8
14	4調査地点中の1地点しか調査できなかったため、比較不可				
15	5	255	499.2	339.5	159.7
16	7	481	759.9	554.3	205.6
17	9	402	531.7	335.9	195.8
18	5	73	825.5	813.7	11.8
19	5	573	1,511.9	1415.2	96.7
20	6	147	324.7	286.0	38.7

21	9	157	1,776.9	1341.4	435.5
22	7	443	398.2	181.3	216.9
23	8	31	457.5	215.5	242.0
24	8	82	856.4	852.2	31.2
25	6	27	358.9	337.4	21.5
26	4	57	671.9	651.7	20.2
27	4	53	174.1	162.2	11.9
28	6	143	741.3	406.5	334.8
29	5	86	654.3	309.0	345.3
30	6	100	1572.0	101.4	1470.6
R1	5	102	1817.7	321.7	1496.0
2	4	41	514.3	255.3	259.0
3	4	66	208.1	54.9	153.2
4	5	105	608.0	81.3	526.7
5	3	158	893.1	52.8	840.3
6	4	203	1066.4	64.2	1002.2

イ 定性調査

水生昆虫を始めとした水生動物の定性調査は、定量調査とあわせて 7 月 19 日、10 月 6 日に実施し、記録した。その結果、次の生物が確認できた。

昆虫：調査日にはコマツモムシ、ユスリカの仲間の 2 種のみ

オオアメンボ、アメンボ、コガムシ、ハイイロゲンゴロウ、ヒメゲンゴロウ、ヒメイトアメンボ、マツモムシ

その他の生物：アメリカザリガニ、ミズムシ、カワリヌマエビの一種が多数見られた。

なお、フロリダミズヨコエビは外来生物（アメリカ南東部原産）で、平成 24 年度の夏、初めて 25 個体確認された。25 年度 15、26 年度と 27 年度は 64 個体と増加し、28 年度は 32 個体。29 年度は 42 個体採取された。H30 年度は 31 個体。令和 4 年度には A 地点で 7 月 10 月に確認、昨年は確認できなかったが今期 7 月 19 日に D 地点で 1 個体確認できた。国内事情では 1989 年に利根川支流にて初記録、他県では「指定外来種」に指定されているという事で、今後も留意して調査を続けていきたい。

(2) 昆虫類

昨年一昨年には数多く見られたオオアイトトンボの姿は見られず、今まではほとんど見られなかった白い粉をふくアオイトトンボ雄の個体が確認できた。

自然生態園で見られたチョウ、トンボ、セミなどの昆虫を記録した。その結果、陸生昆虫と水生昆虫をあわせて 337 種の昆虫（昨年度は 357 種）が確認できた（表 6）。

昆虫のうちトンボ及びチョウの出現状況の経年変化を資料 2 及び資料 3 にまとめた。

表 6 自然生態園で確認された昆虫

No.	目 名	科 名	種 名
1	蜻蛉目	イトトンボ科	アオモンイトトンボ
2			アジイトトンボ
3			セスジイトトンボ
4			クロイトトンボ

No.	目 名	科 名	種 名	
5	蜻蛉目	アオイトトンボ科	オツネイトンボ	
6			アオイトトンボ	
7		カワトンボ科	ハグロトンボ	
8		ヤンマ科	ギンヤンマ	
9			カトリヤンマ	
10			オニヤンマ	
11		トンボ科	シオカラトンボ	
12			コシアキトンボ	
13			リスアカネ	
14			ウスバキトンボ	
15			マイコアカネ	
16			ナツアカネ	
17			アキアカネ	
18			ハラビロトンボ	
19		蠍螂目	カマキリ科	カマキリ
20				オオカマキリ
21				ハラビロカマキリ
22				コカマキリ
23	革翅目	ハサミムシ科	ハサミムシ	
24	直翅目	マツムシ科	アオマツムシ	
25		コオロギ科	エンマコオロギ	
26			タンボコオロギ	
27		ヒバリモドキ科	シバズ	
28		カネタタキ科	カネタタキ	
29		ケラ科	ケラ	
30		キリギリス科	クビキリギス	
31			オナガササキリ	
32			ササキリ	
33		ツユムシ科	セスジツユムシ	
34			サトクダマキモドキ	
35		ヒシバッタ科	ヒシバッタ	
36			トゲヒシバッタ	
37		バッタ科	コバネイナゴ	
38			イボバッタ	
39			ショウリョウバッタ	
40			ツチイナゴ	
41			ハネナガイナゴ	
42			オンブバッタ科	オンブバッタ
43			ゴキブリ科	ヤマトゴキブリ
44				クロゴキブリ
45		モリチャバネゴキブリ		
46	半翅目	マルカメムシ科	マルカメムシ	
47			ヒメマルカメムシ	
48		ツチカメムシ科	ツチカメムシ	
49		カメムシ科	アオクサカメムシ	
50			ルリクチブトカメムシ	
51			キマダラカメムシ	
52			ツヤアオカメムシ	
53			チャバネアオカメムシ	
54			イチモンジカメムシ	
55			トゲシラホシカメムシ	
56			ヘリカメムシ科	キバラヘリカメムシ
57		ホソハリカメムシ		

No.	目 名	科 名	種 名
58	半翅目	ヘリカメムシ科	ホソヘリカメムシ
59			ツマキヘリカメムシ
60			ホオズキカメムシ
61			クモヘリカメムシ
62			ハリカメムシ
63		ヒゲナガカメムシ科	ヒゲナガカメムシ
64		ヒョウタンナガカメムシ科	モンシロナガカメムシ
65		イトカメムシ科	イトカメムシ
66		オオホシカメムシ科	オオホシカメムシ
67			ヒメホシカメムシ
68		ツノカメムシ科	エサキモンキツノカメムシ
69		アメンボ科	アメンボ
70			オオアメンボ
71		イトアメンボ科	ヒメイトアメンボ
72		サシガメ科	ヨコヅナサシガメ
73		マツモムシ科	コマツモムシ
74		セミ科	ニイニイゼミ
75			クマゼミ
76			アブラゼミ
77			ツクツクボウシ
78			ミンミンゼミ
79		アワフキムシ科	ハマベアワフキ
80		フトヨコバイ科	クワキヨコバイ
81		ヨコバイ科	ツマグロヨコバイ
82		アオバハゴロモ科	アオバハゴロモ
83		ハゴロモ科	チュウゴクアミガサハゴロモ
84		カタカイガラムシ科	ルビーロウカイガラムシ
85			ツノロウカイガラムシ
86		ワタフキカイガラムシ科	イセリアカイガラムシ
87		ワタカイガラムシ科	ヒモワタカイガラムシ
88		アブラムシ科	クリオオアブラムシ
89			エンドウヒゲナガアブラムシ
90			バラヒゲナガアブラムシ
91			ソラマメヒゲナガアブラムシ
92		キジラミ科	クワキジラミ
93		ヒゲナガトビケラ科	アオヒゲナガトビケラ
94	脈翅目	ウスバカゲロウ科	ウスバカゲロウ
95		クサカゲロウ科	ムモンクサカゲロウ
96			ヤマトクサカゲロウ
97			アミメクサカゲロウ
98		カマキリモドキ科	ヒメカマキリモドキ
99	甲虫目	オサムシ科	マルガタゴミムシ
100			オオゴミムシ
101			キアシヌレチゴミムシ
102			セアカヒラタゴミムシ
103			ミイデラゴミムシ
104			キアシマルガタゴミムシ
105			クロマルクビゴミムシ
106		ガムシ科	ヒメガムシ
107		ゲンゴロウ科	ハイイロゲンゴロウ
108		クワガタムシ科	コクワガタ
109			ヒラタクワガタ
110			オオクワガタ

No.	目 名	科 名	種 名
111	甲虫目	コガネムシ科	クロコガネ
112			マメコガネ
113			ウスチャコガネ
114			セマダラコガネ
115			アオドウガネ
116			カナブン
117			アカビロウドコガネ
118			シロテンハナムグリ
119			シラホシハナムグリ
120			カブトムシ
121			ヒラタハナムグリ
122			ビロウドコガネ
123			ドウガネブイブイ
124		カツオブシムシ科	ヒメマルカツオブシムシ
125		タマムシ科	タマムシ
126		コメツキムシ科	サビキコリ
127			クシコメツキ
128		ジョウカイボン科	セボシジョウカイ
129		ケシキスイ科	ヨツボシケシキスイ
130		テントウムシ科	ナミテントウ
131			ナナホシテントウ
132			キイロテントウ
133			ヒメカメノコテントウ
134			ニジュウヤホシテントウ
135			ヒメアカボシテントウ
136			アカボシテントウ
137		ゴミムシダマシ科	ユミアシオオゴミムシダマシ
138			キマワリ
139			ヒメキマワリ
140		クチキムシ科	クチキムシ
141			オオクチキムシ
142		カミキリムシ科	キボシカミキリ
143			ゴマダラカミキリ
144			キマダラカミキリ
145			ヒメクロトラカミキリ
146			ナガゴマフカミキリ
147			カタシロゴマフカミキリ
148			ゴマフカミキリ
149			キクスイカミキリ
150			アトモンサビカミキリ
151		ハムシ科	ウリハムシ
152			クロウリハムシ
153			ヨモギハムシ
154			フジハムシ
155			コガタルリハムシ
156			ハンノキハムシ
157			ヤナギルリハムシ
158			クロボシツツハムシ
159			クワハムシ
160			ヤマイモハムシ
161			イノコヅチカメノコハムシ
162			バラルリツツハムシ
163			ジンガサハムシ

No.	目 名	科 名	種 名
164	甲虫目	ハムシ科	ルイスジンガサハムシ
165		チョッキリゾウムシ科	ハイイロチョッキリ
166		ゾウムシ科	カツオゾウムシ
167			カシワクチブトゾウムシ
168			クロタマゾウムシ
169	双翅目	ガガンボ科	キリウジガガンボ
170			ベッコウガガンボ
171			キイロホソガガンボ
172			ホリカワクシヒゲガガンボ
173		ミズアブ科	コウカアブ
174			アメリカミズアブ
175		ムシヒキアブ科	シオヤアブ
176			マガリケムシヒキ
177			サキグロムシヒキ
178			アオメアブ
179		ハナアブ科	マメヒラタアブ
180			ハナアブ
181			シマハナアブ
182			ヒメヒラタアブ
183			ナミホシヒラタアブ
184			ヒゲナガハナアブ
185			アシフトハナアブ
186			ホソヒラタアブ
187			オオハナアブ
188		ヒメイエバエ科	ヒメイエバエ
189		イエバエ科	イエバエ
190		クロバエ科	オオクロバエ
191			キンバエ
192			ツマグロキンバエ
193		ショウジョウバエ科	キイロショウジョウバエ
194		ベッコウバエ科	ベッコウバエ
195		ニクバエ科	センチニクバエ
196		アシナガヤセバエ科	マダラアシナガバエ
197			アシナガヤセバエ
198			ホシアシナガヤセバエ
199		ヤドリバエ科	カイコノウジバエ
200		タマバエ科	エノキトガリタマバエ
201		カ科	ヒトスジシマカ
202			アカイエカ
203		ユスリカ科	セスジユスリカ
204	鱗翅目	アゲハチョウ科	ナミアゲハ
205			ナガサキアゲハ
206			アオスジアゲハ
207			クロアゲハ
208			キアゲハ
209		シロチョウ科	キタキチョウ
210			モンキチョウ
211			モンシロチョウ
212		シジミチョウ科	ウラギンシジミ
213			ベニシジミ
214			ヤマトシジミ
215			ツバメシジミ
216			ムラサキシジミ

	目 名	科 名	種 名
217	鱗翅目	シジミチョウ科	ウラナミシジミ
218		テングチョウ科	テングチョウ
219		ジャノメチョウ科	ヒメジャノメ
220			サトキマダラヒカゲ
221			クロヒカゲ
222			クロコノマチョウ
223		タテハチョウ科	ツマグロヒョウモン
224			ルリタテハ
225			キタテハ
226			アカボシゴマダラ
227			ゴマダラチョウ
228			コムラサキ
229			ヒオドシチョウ
230		セセリチョウ科	キマダラセセリ
231			イチモンジセセリ
232			チャバネセセリ
233		スズメガ科	コスズメ
234			オオスカシバ
235			モモスズメ
236			シモフリスズメ
237			セスジスズメ
238			トビイロスズメ
239			サザナミスズメ
240			ホシホウジャク
241			ブドウスズメ
242			クチバスズメ
243		シャチホコガ科	モンクロシャチホコ
244			モンクロギンシャチホコ
245		コブガ科	キノカワガ
246		ヤガ科	アケビコノハ
247			マダラツマキリヨトウ
248			ミツボシキリガ
249			シマキリガ
250			キシタバ
251			シロスジアオヨトウ
252			ハマオモトヨトウ
253			シラミアツバ
254			オオウンモンクチバ
255			ウリキンウワバ
256			シロシタヨトウ
257			ナカグロクバチ
258		カレハガ科	オビカレハ
259		ドクガ科	マイマイガ
260			チャドクガ
261			モンシロドクガ
262			マメドクガ
263			キドクガ
264		カイコガ科	クワゴ
265		イカリモンガ科	イカリモンガ
266		イラガ科	イラガ
267			ヒメクロイラガ
268			アオイイラガ
269		ツバメガ科	ギンツバメ

No.	目 名	科 名	種 名
270	鱗翅目	カノコガ科	カノコガ
271		ヒトリガ科	アメリカシロヒトリ
272			シロヒトリ
273			オビヒトリ
274			オビヒトリ
275		ミノガ科	チャミノガ
276			オオミノガ
277		スカシバガ科	ヒメアトスカシバ
278			ブドウスカシバ
279			コスカシバ
280			モモブトスカシバ
281		ヒロズコガ科	マダラマルハヒロズコガ
282		マダラガ科	タケノホソクロバ
283		シャクガ科	クワエダシャク
284			ユウマダラエダシャク
285			ヨモギエダシャク
286			ウスキツバメエダシャク
287			トビモンオオエダシャク
288			トビモンオオエダシャク
289		ヒゲナガガ科	クロハネシロヒゲナガ
290			ホソオビヒゲナガ
291			コンオビヒゲナガ
292		マドガ科	マドガ
293		ツトガ科	ツゲノメイガ
294			モモノゴマダラノメイガ
295			ヨツボシノメイガ
296			シロオビノメイガ
297	膜翅目	ミフシハバチ科	ニホンチュウレンジバチ
298			アカスジチュウレンジバチ
299		コンボウハバチ科	キイロモモブトハバチ
300		セダカヤセバチ科	ホシセダカヤセバチ
301		ハバチ科	ニホンカブラハバチ
302			セグロカブラハバチ
303			ヒラアシハバチ
304			オスグロハバチ
305			ハグロハバチ
306			チャイロハバチ
307		スズメバチ科	セグロアシナガバチ
308			フタモンアシナガバチ
309			オオスズメバチ
310			コガタスズメバチ
311		ドロバチ科	スズバチ
312			ムモントックリバチ
313			エントツドロバチ
314			オオフタオビドロバチ
315			ミカドトックリバチ
316		ミツバチ科	クマバチ
317			タケクマバチ
318			セイヨウミツバチ
319			コマルハナバチ
320		ヒメハナバチ科	ウツギヒメハナバチ
321		ツチバチ科	ヒメハラナガツチバチ
322			ハラナガツチバチ

No.	目 名	科 名	種 名
323	膜翅目	ジガバチ科	キゴシジガバチ
324		ベッコウバチ科	オオモンクロベッコウ
325			ベッコウバチ
326		ヒメバチ科	クロモンアメバチ
327		タマバチ科	クヌギハケタマバチ
328			クヌギハケツボタマバチ
329			クヌギハマルタマバチ
330			ナラメイガタマバチ
331			ナラタイコタマバチ
332			バラハタマバチ
333		アリ科	アメイロケアリ
334			アミメアリ
335			クロオオアリ
336			クロクサアリ
337			トビイロケアリ

(3) ほ乳類

年間を通じて自然生態園に生息するほ乳類について調査した。その結果、カヤネズミ、アブラコウモリ、イタチ、アライグマ、モグラ、タヌキ、キツネが目撃及び死骸、食痕などの痕跡でいるのが推察され生息とした。今年度7種(前年度8種)が確認された。伐採などによって環境の変化はあるが、引き続きモニタリングを継続し完全な棲息地ではないが来訪地であることは確かである。

(4) 鳥類

自然生態園とその周辺で見られる野鳥を通年で適宜調査し、記録した。その結果、34種の野鳥(前年度は36種)が観察された(表7)。

観察された野鳥の種の経年変化を資料4にまとめた。オオルリは来なかった。

表7 自然生態園で確認された野鳥

No.	科名	種名	No.	科名	種名
1	ウ科	カワウ	18	モズ科	モズ
2	サギ科	アオサギ	19	ヒタキ科	シロハラ
3		コサギ	20		セッカ
4		ダイサギ	21		ツグミ
5	ガンカモ科	カルガモ	22		ウグイス
6		マガモ	23		ジョウビタキ
7	ワシタカ科	オオタカ	24		センダイムシクイ
8		トビ	25		コサメビタキ
9	ハヤブサ科	チョウゲンボウ	26		キビタキ
10	チドリ科	ケリ	27	シジュウカラ科	シジュウカラ
11	ハト科	キジバト	28	メジロ科	メジロ
12	ヒバリ科	ヒバリ	29	アトリ科	カワラヒワ
13	ツバメ科	ツバメ	30		イカル
14	セキレイ科	ハクセキレイ	31	スズメ科	スズメ
15		セグロセキレイ	32	ムクドリ科	ムクドリ
16	カワセミ科	カワセミ	33	カラス科	ハシボソガラス
17	ヒヨドリ科	ヒヨドリ	34		ハシブトガラス

(5) は虫類等

自然生態園とその周辺で見られるは虫類、両生類及び魚類について、年間を通じて、適宜調査し、記録した。

その結果、は虫類はヤモリ(ヤモリ科)、ニホンカナヘビ(カナヘビ科)、アオダイショウ(ナミヘビ科)、ヒバカリ(ナミヘビ科)、シマヘビ(ナミヘビ科)、の5種(前年度は6種)が確認できた。

両生類はニホンアマガエル(アマガエル科)、トノサマガエル(アカガエル科)、ナゴヤダルマガエル(アカガエル科)、ヌマガエル(アカガエル科)の4種(前年度も4種)が確認できた。は虫類、両生類は変わらず推移している。

このうち、ナゴヤダルマガエルは環境省のレッドデータリストで絶滅危惧Ⅱ類に指定されている。

ウシガエルは平成 22 年度の夏以降は出現していない。
メダカ、ギンブナ、ドジョウ、ヌマエビが多く見られ、モクズガニが確認できた。
シジミ、カワニナ、サカマキガイも見ることができた。

(6) 植生

植生のコドラート調査

自然生態園に 2 か所コドラート (1.5m×1.5m) を設定し、その中で生育している植物種と総合優占度を調査した (資料 5)。

(ア) 森の北の A 地点

ここは、上空をムクノキやヤブニッケイなどの樹木に遮られ、日がほとんど射さない場所で、かつてはネザサが優占していたが、ネザサに花が咲き、ほとんどが枯れた。その中に、ヤブニッケイ、ヤブツバキ、アカメガシワ、フジ、アケビ、マンリョウなどの幼樹が生えて、ジャノヒゲなどの草本もわずかに見られた。

4 回の調査では 23 種の確認となった。

かつて優占していたシダのイワヒメワラビ、園内にはあっても、コドラート内には平成 23 年度から見られていなかったのが、今期 10 月と 2 月には確認できた。

(イ) 森の西の B 地点

以前はセイタカアワダチソウなどの草本が優占していた。しかし、津島神社林縁部の樹木が外側に進出し、上空がムクノキの枝で覆われて日照条件が変化したことにより、セイタカアワダチソウは消滅し、サネカズラ、ノイバラ、アカメガシワ、ヤブニッケイが育つなど、草地から樹林地へと植生の遷移が進行している。地面を覆っていた樹木の背丈が伸び、日差しを受けやすくなっていたがノイバラやサネカズラが伸びて、地面を覆っている。これらの陰になり草本は育ちづらくなり、セリやキショウブは見られなくなっている。本年度 4 回の調査では 14 種確認した。

なお、7 月に優占度 4 を記録したノイバラが 9 月以降無いのは、人為的なものと思われる。

生育種の調査

自然生態園で見られる植物を調査し、生育している種を記録した。

その結果、維管束植物（草本・木本）は 295 種（前年度は 298 種）、菌類（キノコ類）は 59 種（前年度は 65 種）が確認できた。（表 8）。

この中には、環境省のレッドデータリストで絶滅危惧Ⅱ類として指定されているヒトツバタゴ（植栽されたもの）がある。本年度は準絶滅危惧種として指定されているカワデシヤやミゾコウジュは確認できなかった。また鳥類の糞からと思われる海岸線分布のイヌビワの実生には今年も結実がみられた。

表 8 自然生態園で確認された植物

No.	科名	種名	No.	科名	種名
1	イチョウ科	イチョウ	42	クスノキ科	タブノキ
2	マキ科	イヌマキ	43	キンポウゲ科	ケキツネノボタン
3	マツ科	クロマツ	44	メギ科	ホソバヒイラギナンテン
4	ヒノキ科	ヒノキ	45		ナンテン
5	ヤマモモ科	ヤマモモ	46		ヒイラギナンテン
6	ヤナギ科	アカメヤナギ	47	モクレン科	コブシ
7		カワヤナギ	48	アケビ科	アケビ
8		ナガバカワヤナギ	49		トキワアケビ
9	カバノキ科	ハンノキ	50	スイレン科	スイレン
10	ブナ科	コナラ	51	ドクダミ科	ドクダミ
11		クヌギ	52	センリョウ科	センリョウ
12		シラカシ	53	ツバキ科	ヤブツバキ
13		スダジイ	54		モッコク
14		ツブラジイ	55		ヒサカキ
15	ニレ科	ムクノキ	56		サカキ
16		ケヤキ	57	アブラナ科	イヌガラシ
17		エノキ	58		スカシタゴボウ
18	クワ科	クワ	59		ナズナ
19		イヌビワ	60		タネツケバナ
20		ホソバイヌビワ	61		マメゲンバイナズナ
21	タデ科	スイバ	62	ベンケイソウ科	コモチマンネングサ
22		ギシギシ	63	バラ科	トキワサンザシ
23		イヌタデ	64		ビワ
24		ミゾソバ	65		カマツカ
25		イタドリ	66		シャリンバイ
26		イシミカワ	67		ヘビイチゴ
27		ボントクタデ	68		ノイバラ
28		ミチャナギ	69		ソメイヨシノ
29	ヤマゴボウ科	ヨウシュヤマゴボウ	70		トヨラキイチゴ
30	ザクロソウ科	クルマバザクロソウ	71	マメ科	シロツメクサ
31	ナデシコ科	ハコベ	72		コメツブツメクサ
32		ウシハコベ	73		フジ
33		ノミノフスマ	74		レンゲ
34		ノミノツヅリ	75		アレチヌスビトハギ
35		オランダミナグサ	76		スズメノエンドウ
36		ツメクサ	77		カスマグサ
37	ヒユ科	ヒナタイノコヅチ	78		カラスノエンドウ
38	アカザ科	シロザ	79		ツルマメ
39	マツバサ科	サネカズラ	80		ヤハズソウ
40	クスノキ科	クスノキ	81		トキリマメ
41		ヤブニツケイ	82	カタバミ科	カタバミ

No.	科名	種名
83	カタバミ科	オッタチカタバミ
84	フウロソウ科	アメリカフウロ
85	トウダイグサ科	アカメガシワ
86		エノキグサ
87		オオニシキソウ
88		コニシキソウ
89	ミカン科	サンショウ
90		ナツミカン
91	センダン科	センダン
92	ウルシ科	ヤマウルシ
93		ヌルデ
94	カエデ科	イロハモミジ
95		トウカエデ
96	モチノキ科	モチノキ
97		クロガネモチ
98		タラヨウ
99		イヌツゲ
100	ニシキギ科	マユミ
101		ツルウメモドキ
102		マサキ
103		コマユミ
104	ブドウ科	ヤブガラシ
105		ノブドウ
106		ツタ
107	ホルトノキ科	ホルトノキ
108	マタタビ科	キウイ
109	グミ科	ナツグミ
110		ナワシログミ
111	スミレ科	ニョイスミレ
112		アリアケスミレ
113		ノジスミレ
114	ウリ科	スズメウリ
115		カラスウリ
116		キカラスウリ
117		アマチャズル
118	ミズキ科	アオキ
119		サンシュユ
120	ウコギ科	ヤツデ
121		カクレミノ
122		タラノキ
123	セリ科	ヤブジラミ
124		オヤブジラミ
125		セリ
126		チドメグサ
127	ツツジ科	シャシャンボ
128	サクラソウ科	コナスビ
129	アカバナ科	アレチマツヨイグサ
130		コマツヨイグサ
131	ヤブコウジ科	マンリョウ
132		ヤブコウジ
133	カキノキ科	カキノキ
134	モクセイ科	ヒトツバタゴ

135	モクセイ科	ネズミモチ
136		トウネズミモチ
137		イボタノキ
138	ガガイモ科	ガガイモ
139	ヒルガオ科	ヒルガオ
140	ムラサキ科	ハナイバナ
141		キュウリグサ
142	アカネ科	クチナシ
143		ヘクソカズラ
144		ヤエムグラ
145		ハシカグサ
146	クマツヅラ科	アレチハナガサ
147		ダキハアレチハナガサ
148		クサギ
149	シソ科	カキドオシ
150		ヒメオドリコソウ
151		トウバナ
152		ホトケノザ
153		キランソウ
154		ヒメジソ
155	ナス科	ヒヨドリジョウゴ
156		イヌホオズキ
157		アメリカイヌホオズキ
158		フユサンゴ
159	ゴマノハグサ科	ウリクサ
160		トキワハゼ
161		オオイヌノフグリ
162		タチイヌノフグリ
163		ムシクサ
164	キツネノマゴ科	オギノツメ
165	オオバコ科	オオバコ
166	スイカズラ科	スイカズラ
167		サンゴジュ
168	キキョウ科	ミゾカクシ
169		ヒナキキョウソウ
170	キク科	セイタカアワダチソウ
171		ヨメナ
172		ハルジオン
173		ヒメジョオン
174		ヒメムカシヨモギ
175		アメリカセンダングサ
176		コセンダングサ
177		ゴシロセンダングサ
178		ヨモギ
179		ダンドボロギク
180		ノボロギク
181		ノゲシ
182		オオジシバリ
183		トウカイタンポポ
184		アキノノゲシ
185		セイヨウタンポポ
186		オニタビラコ

No.	科名	種名
187	キク科	ヤブタビラコ
188		コオニタビラコ
189		ホウキギク
190		アレチノギク
191		ハハコグサ
192		チチコグサモドキ
193		タチチチコグサ
194		ウラシロチチコグサ
195		フキ
196		ヒメブタナ
197		オオアレチノギク
198		ノアザミ
199		ハキダメギク
200		ノニガナ
201	ユリ科	タカサゴユリ
202		ヤブカンゾウ
203		ラッキョウ
204		オモト
205		ノビル
206		ラッパスイセン
207		ウバユリ
208		ヤブラン
209		ジャノヒゲ
210		ツルボ
211	キジカクシ科	アスパラガス
212	ヒガンバナ科	ヒガンバナ
213	ヤマノイモ科	ヤマノイモ
214		ナガイモ
215	アヤメ科	キショウブ
216		シャガ
217		カキツバタ
218		ニワゼキショウ
219		オオニワゼキショウ
220	イグサ科	クサイ
221		ホソイ
222	ツユクサ科	ヤブミョウガ
223		ツユクサ
224		シマツユクサ
225		イボクサ
226		ムラサキツユクサ
227	イネ科	モウソウチク
228		トウチク
229		ネザサ
230		マコモ
231		ヨシ
232		ネズミムギ
233		スズメノカタビラ
234		クサヨシ
235		カゼクサ
236		オヒシバ
237		チゴザサ
238		トダシバ

No.	科名	種名
239	イネ科	チカラシバ
240		エノコログサ
241		アキ/エノコログサ
242		チヂミザサ
243		ススキ
244		オギ
245		カモジグサ
246		ミゾイチゴツナギ
247		ギョウギシバ
248		メヒシバ
249		ナガハグサ
250		カニツリグサ
251		オニウシノケグサ
252		ニワホコリ
253		チガヤ
254		カモガヤ
255		シマスズメノヒエ
256		イヌビエ
257		スズメノテッポウ
258		アオカモジグサ
259		ササガヤ
260		ハナヌカススキ
261		ジュズダマ
262		カラスムギ
263		ナルコビエ
264		セイバンモロコシ
265		メリケンカルカヤ
266		ナギナタガヤ
267		アゼガヤ
268	ヤシ科	シュロ
269	サトイモ科	カラスビシャク
270		セキショウ
271		ショウブ
272	カヤツリグサ科	コゴメガヤツリ
273		マスクサ
274		メリケンガヤツリ
275		シュロガヤツリ
276		アゼナルコ
277		ハマスゲ
278		アオスゲ
279		アゼスゲ
280		ヒメクグ
281		ジュズスゲ
282		オキナワジュズスゲ
283		シラスゲ
284		タマガヤツリ
285	ラン科	ネジバナ
286	トクサ科	スギナ
287	コバノイシカグマ科	イワヒメワラビ
288	ハナワラビ科	フユノハナワラビ
289	フサシダ科	カニクサ
290	オンダ科	ヤマヤブソテツ

No.	科名	種名
291	オシダ科	ベニシダ
292	イノモトソウ科	イノモトソウ
293	チャセンシダ科	トラノオシダ
294	ウラボシ科	ノキシノブ
295	イワデンダ科	ホソバシケシダ
No.	科名	種名
1	ヒラタケ科	ヒラタケ
2		スエヒロタケ
3	ヌメリガサ科	トガリベニヤマタケ
4		ヒイロガサ
5		ベニヤマタケ
6	キシメジ科	ハナオチバタケ
7		カレバキツネタケ
8		ヒメホウライタケ
9		ヒロヒダタケ
10		ツエタケ
11		オオホウライタケ
12		シジミタケ
13		ウマノケタケ
14	テングタケ科	テングツルタケ
15		ドクツルタケ
16		フクロツルタケ
17		ツルタケ
18	ウラボシガサ科	ベニヒダタケ
19	ハラタケ科	ナカグロモリノカサ
20	フウセンタケ科	クロトマヤタケ
21	イグチ科	ヤマドリタケモドキ
22		アカジコウ
23	ヒトヨタケ科	イヌセンボンタケ
24		ナヨタケ
25		クズヒトヨタケ
26		マグソヒトヨタケ
27		ヒトヨタケ
28		ザラエノヒトヨタケ
29	オキナタケ科	ヤナギマツタケ
30	ベニタケ科	ニオイワチチタケ
31		シロハツモドキ
32		キチャハツ
33		クロハツモドキ
34		ヤブレベニタケ
35		ケショウハツ
36		ニオイコベニタケ
37		カレバハツ
38		ニセクロハツ
39	シロソウメンタケ科	シロソウメンタケ

No.	科名	種名
40	カレエダタケ科	カレエダタケ
41	ウロコタケ科	モミジウロコタケ
42	ニンギョウタケモドキ科	ニンギョウタケ
43	タコウキン科	ヒイロタケ
44		ハチノスタケ
45		カワラタケ
46		キカイガラタケ
47		ツヤウチワタケ
48	ニセショウロ科	ヒメカタショウロ
49		ウスキニセショウロ
50		ニセショウロ
51	コツブタケ科	コツブタケ
52	ホリコタケ科	ノウタケ
53	スッポンタケ科	スッポンタケ
54	ジャガイモタケ科	クラマノジャガイモタケ
55	シロキクラゲ科	コガネニカワタケ
56	キクラゲ科	アラゲキクラゲ
57		キクラゲ
58	ヒメキクラゲ科	タマキクラゲ
59	ズキンタケ科	ゴムタケ

(7) 水質

池の水質の調査は次の方法により、令和6年7月19日、9月15日、10月6日、令和7年2月9日に池のB地点と水源井戸において実施した。
水質の調査結果は次表のとおりであった。

表9 池の水質調査結果

日付	天候	場所	水温	pH	DO	COD	NH ₄ -N	NO ₂ -N	NO ₃ -N	PO ₄ -P
7/19	曇	B地点	23.5	7.4	28.0	6.0	0.50	0.02	0.84	0.02
		井戸	18.0	7.2	20.4	6.0	0.50	0.005	0.96	0.02
9/15	晴	B地点	27.0	7.6	0.6	6.0	0.50	0.02	0.34	0.1
		井戸	17.5	7.4	18.0	6.0	1.00	0.005	0.46	0.1
10/6	一時雨	B地点	21.0	7.4	8.5	6.0	0.20	0.005	1.96	0.02
		井戸	17.0	7.4	3.0	6.0	0.50	0.005	0.46	0.05
2/9	晴	B地点	14.0	7.6	18.1	6.0	0.20	0.005	0.16	0.05
		井戸	17.0	7.6	12.8	5.0	0.20	0.005	0.96	0.1

- (注) 1 単位：水温は℃、その他はpHを除きmg/リットル
 2 NO₃については、NO₃-N=NO₃-Nの測定値-NO₂-Nの測定値×8で算出
 3 DO測定：マザーツール社 DO-5509 使用
 基準値：20.9%に対して溶存酸素量を%表記

水源の井戸水は地中の温度が安定しているため、以前はほぼ15℃～16℃で安定していたが、25年度は17.5℃、27年以降18℃以上になっている。本年度は17～18℃。また、CODも従来2～4mg/リットルであったが、23年度から8mg/リットル以上という高い値が出現したが、本年度は6mg/リットル以下となった。NO₃-Nの値も従来は1mg/リットル以下が多かったが、平成21年度から高い値が生じるようになった。地下水の状況が変化している可能性も考えられる。

なお、池の水は夏季には植物プランクトンで緑色を呈していたが、かつて大量に出現していたアオミドロの仲間の藻類は平成21年度からわずかに見られる程度の状態が続き、26年度は水抜きの後すぐに見られ、27年度からは、わずかな発生となった。本年度はほとんど見られていない。

現在のところ、池の水質がどの程度でなければならないという基準は定められていないが、国が環境基本法に基づき湖沼について維持することが望ましい基準として設定している環境基準によると、次のようなランクに相当するものと考えられる。

(生活環境項目)

区分	pH	COD	DO	水域の主な用途
B	6.5以上8.5以下	5mg/l以下	5mg/l以上	農業用水 水産3級(コイ、フナなど)
C	6.5以上8.5以下	8mg/l以下	2mg/l以上	環境保全(不快感を感じない)

(窒素、りん)

区分	窒素	りん	水域の主な用途
V	1mg/l以下	0.1mg/l以下	農業用水 水産3種(コイ、フナなど)

今回、自然生態園で実施した水質調査は簡易測定であり、環境基準の達成状況
を評価するために定められた水質測定方法とは異なるので厳密な比較はできな
いが、自然生態園の池は、COD が 4～8mg/リットル以上であり、C ランクあた
りとなっている。また、窒素は $\text{NH}_4\text{-N}$ 、 $\text{NO}_2\text{-N}$ 、 $\text{NO}_3\text{-N}$ という無機性窒素だけ
しか測定していないが、これだけで 1 mg/リットル以上になっている。窒素の濃
度に着目すると、水質はVランクへの適合も厳しい状態といえるが、原因は水源
の井戸水の $\text{NO}_3\text{-N}$ が高いことによるものである。

お わ り に

岩倉市自然生態園は、市内及び周辺自治体の市民の間ではその存在がよく知られ、ザリガニ釣りや昆虫などの観察に多くの親子連れが訪れ自然に親しんでいる。

ここは、単にザリガニ釣りなど生き物とのふれあいを楽しむための場というだけでなく、野鳥が集い、環境省のレッドデータリストで絶滅危惧Ⅱ類に指定されたカヤネズミやナゴヤダルマガエルが生息し、準絶滅危惧種に指定されたカワデシヤやミゾコウジュの生育がみられたなど、これらの生物の貴重な生息・生育の場である。

これまでの調査の結果、自然生態園に生息する生物が変化していることがわかってきた。H30 年度の調査ではカダヤシが確認されたが、これは人為的に持ち込まれたと思われる。

水生昆虫では、トンボのヤゴは依然として数が少なくなっており、以前見られていたフタバカゲロウが消えるなど減少している。

また、H24 年度に初めて、生態系への影響が懸念される外来生物のフロリダミズヨコエビが採取された。県内では既にこの種の侵入が記録されているが、詳細な分布や流入経路は不明である。当地では H24 年の夏初めて 25 個体確認。ピーク時（H26 年度と H27 年度）64 個体。以来減少し R5 年度 0 個体、本年度 1 個体の記録になった。今後もどのように変化するか注視したい。

稲作の仕組みが変化し用水や田の乾地化による影響も考えられる。

ヤゴが水田で育つアキアカネなどが激減している。（例外的に H28.10.29 台風の影響で一時的に 20 頭以上を確認した。）

開園以来、自然生態園の立地条件も変化している。畑地続きだった鎮守の杜の東側が道路で分断され、北側にも家屋が建ち南側にも住居が増え畑地が減った。たんぼの国のトンボの郷というキャッチフレーズから外れてきている。シンボリックなコウモリタワーも老朽化し R4 年 1 月撤去された。自然生態園として整備されたとき、鎮守の杜の植生を参考にして植えられた木々は大きく育ち、鎮守の杜と一体化して多くの生命を育てている。

参道はいつも掃き清められた鎮守の杜はすがすがしい。参拝者や氏子への危険防止の為に H29 年には「保護樹林指定標識」のある杜の樹木の一部が伐採されたが切株からはひこばえが育ち野草も茂り、近年松などが植栽されている。今後も地元とともに協議し理解を深め、鎮守の杜とビオトープを一体化しつつ環境の変化を追跡することで多様な生物の保護に努めたい。

資料1 水生生物の定量調査結果

調査日: R6/7/19

地点	種名	種数	個体数	乾燥重量	備考
A	アメリカザリガニ		1	3.1	
	小計	1	1	3.1	
B	コマツモムシ		1	5.6	
	小計	1	1	5.6	
C	採捕なし		-	-	
	小計	0	0	0	
D	ヨコエビ		1	2.7	フロリダマミズヨコエビ
	イトミミズ		1	0.1	
	小計	2	2	2.8	
合計		4	4	11.5	

調査日: R6/10/6

地点	種名	種数	個体数	乾燥重量	備考
A	採捕なし		0	0	
	小計	0	0	0	
B	アメリカザリガニ		8	21.7	
	カワリヌマエビ属の一種		106	336.9	
	小計	2	114	358.6	
C	アメリカザリガニ		1	42.5	
	ユスリカ		1	4.0	
	カワリヌマエビ属の一種		59	495.5	
	小計	3	61	542.0	
D	カワリヌマエビ属の一種		11	101.0	
	コマツモムシ		17	64.8	
	小計	2	28	165.8	
合計		4	203	1066.4	

資料2 自然生態園で観察されたトンボの推移

No.	種 名	H12	H13	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6
1	ホソミイトンボ										○		○			○										
2	キイトンボ	○	○	○						○																
3	アオモンイトンボ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
4	アジアイトンボ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
5	クロイトンボ	○	○	○		○	○	○	○									○								○
6	セスジイトンボ	○	○	○	○																	○	○	○	○	○
7	*アオイトンボ							○	○														○			○
8	アオイトンボsp(小)																		○							
9	オオアオイトンボ									○	○		○	○	○	○	○	○	○	○		○	○	○	○	
10	オツネントンボ				○			○			○	○	○	○								○	○	○	○	○
11	ホソミオツネントンボ				○				○					○		○										
12	ハグロトンボ			○	○					○	○	○	○	○	○		○	○	○	○	○	○	○		○	○
13	オナガサナエ													○												
14	オオサカサナエ																		○							
15	コオニヤンマ																				○					
16	オニヤンマ		○																	○						○
17	アオヤンマ																									
18	カトリヤンマ	○	○	○	○	○	○	○	○			○	○											○	○	○
19	マダラヤンマ																									
20	マルタンヤンマ	○				○			○			○		○	○					○						
21	クロスジギンヤンマ	○				○	○	○	○	○	○	○		○	○	○	○	○	○	○			○			
22	ギンヤンマ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
23	オオギンヤンマ																									
24	ヤブヤンマ																						○			
25	タカネトンボ												○							○						
26	トラフトンボ	○				○	○	○																		
27	オオヤマトンボ	○	○	○					○	○																
28	ハラビロトンボ		○	○	○	○	○	○		○	○								○	○					○	
29	シオカラトンボ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
30	シオヤトンボ											○											○	○		
31	コフキトンボ										○															
32	オオシオカラトンボ			○			○	○	○	○	○	○	○	○		○	○	○	○	○				○		
33	ショウジョウトンボ		○		○		○				○	○														
34	ミヤマアカネ																									
35	ナツアカネ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○			○					○	○
36	アキアカネ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○			○	○
37	マユタテアカネ			○		○	○		○		○	○	○	○	○		○	○	○		○		○		○	
38	マイコアカネ	○	○	○	○	○	○	○	○																	○
39	リスアカネ					○	○	○	○	○	○	○	○						○		○	○	○	○	○	○
40	ノシメトンボ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○			○	○	○	○	○		○	○	○		○		○
41	コノシメトンボ																			○				○		
42	ネキトンボ				○																					
43	コシアキトンボ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
44	ウスバキトンボ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
45	チョウトンボ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○					○		○					
	観察種数	19	18	20	19	19	20	20	21	18	21	20	18	20	15	14	14	14	17	17	12	14	16	16	16	18

(注) 多、中、少は観察された数を相対的に表し、－は観察なし * アオイトンボ(雄)は粉吹き見分けあり

資料3 自然生態園で観察されたチョウの推移

No.	種 名	H12	H13	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6
1	ジャコウアゲハ			○	○									○										○		
2	ナミアゲハ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
3	キアゲハ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○						○
4	クロアゲハ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○			○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○
5	ナガサキアゲハ							○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
6	モンキアゲハ					○					○	○			○	○		○	○	○	○			○		
7	カラスアゲハ				○	○	○	○																		
8	オナガアゲハ																				○					
9	アオスジアゲハ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
10	キタキチョウ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
11	モンキチョウ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
12	ツマキチョウ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○						
13	モンシロチョウ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
14	ウラギンシジミ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
15	ウラナミアカシジミ													○												
16	ムラサキツバメ																				○					
17	ムラサキシジミ			○		○		○		○		○	○			○	○	○	○	○		○	○	○	○	○
18	ベニシジミ		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
19	トラフシジミ																○									
20	ウラナミシジミ					○	○	○	○	○	○	○	○	○					○	○		○	○	○	○	○
21	ヤマトシジミ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
22	ルリシジミ						○		○			○		○	○	○			○	○	○					
23	ツバメシジミ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
24	テングチョウ	○	○	○	○		○	○	○	○		○		○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
25	アサギマダラ												○	○	○	○										
26	ツマグロヒョウモン	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
27	ミドリヒョウモン																						○			
28	アサマイチモンジ							○	○				○													
29	コムスジ								○		○	○							○	○						
30	キタテハ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○
31	ヒオドシチョウ			○			○	○		○			○	○	○	○	○	○	○	○	○			○	○	○
32	ルリタテハ	○	○			○	○	○	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
33	アカタテハ	○						○	○	○		○					○	○			○	○	○			
34	ヒメアカタテハ	○			○	○	○	○	○	○		○										○		○	○	
35	コムラサキ	○	○	○	○	○		○	○	○	○	○		○	○	○	○	○	○			○	○	○	○	○
36	ゴマダラチョウ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
37	アカボシゴマダラ																								○	○
38	サトキマダラヒカゲ	○	○	○	○	○	○					○	○	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
39	ヒメジャノメ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
40	コジャノメ					○			○																	
41	クロコノマチョウ				○		○		○	○		○	○	○			○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
42	キマダラセセリ						○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
43	チャバネセセリ					○	○	○	○		○	○	○	○		○	○	○			○	○	○	○	○	○
44	イチモンジセセリ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
45	クロヒカゲ																	○			○				○	○
	観察種数	22	20	23	24	27	28	30	31	27	25	32	28	30	26	29	28	30	30	29	29	27	27	28	28	29

資料4 自然生態園で観察された野鳥の推移

No.	種 名	H12	H13	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6
1	カワウ		○	○	○	○		○	○	○	○	○					○		○	○	○	○	○	○	○	○
2	ゴイサギ	○	○	○	○	○	○	○	○		○	○		○	○	○	○	○		○		○	○	○		
3	ササゴイ										○															
4	アマサギ	○	○	○	○		○					○		○					○		○					
5	ダイサギ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
6	チュウサギ																		○	○						
7	コサギ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○			○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
8	アオサギ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
9	マガモ																○	○	○	○	○			○	○	○
10	カルガモ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
11	コガモ	○								○	○							○								
12	トビ	○	○	○	○	○	○			○	○	○	○	○					○		○				○	○
13	オオタカ					○			○	○	○	○	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
14	ハイタカ						○			○					○							○	○	○	○	
15	ノスリ			○			○			○	○		○	○					○	○	○					
16	ハヤブサ														○											
17	チョウゲンボウ		○	○	○	○	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
18	サシバ																		○							
19	コジュケイ							○																		
20	キジ	○	○	○	○		○	○	○		○							○	○	○						
21	バン							○																		
22	イカルチドリ				○																					
23	シロチドリ						○																			
24	ケリ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
25	タゲリ		○																							
26	クサシギ										○	○									○					
27	タシギ																									
28	ヤマシギ												○													
29	キジバト	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
30	アオバト											○								○						
31	ヒメアマツバメ								○																	
32	カワセミ	○			○	○	○	○	○	○	○	○	○			○	○	○	○	○	○	○		○	○	○
33	ヒバリ	○	○	○	○		○	○	○	○	○	○			○	○		○	○			○		○	○	○
34	ショウドウツバメ	○	○	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○				○								
35	ツバメ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
36	イワツバメ													○												
37	キセキレイ			○	○	○	○	○	○		○	○		○		○	○	○	○		○	○	○	○	○	○
38	ハクセキレイ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○			○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
39	セグロセキレイ		○		○	○	○	○	○	○	○	○	○			○	○	○	○		○	○	○	○	○	○
40	タヒバリ											○														
41	サンショウクイ																		○							
42	ヒヨドリ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
43	モズ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
44	オオモズ																○									
45	ミソサザイ						○																			
46	ルリビタキ			○																						
47	ジョウビタキ			○	○	○				○	○	○				○			○	○	○	○	○	○	○	○
48	トラツグミ									○	○															
49	クロツグミ						○																			
50	アカハラ					○	○		○	○	○	○	○	○				○	○	○		○	○	○		
51	シロハラ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
52	マミチャジナイ											○														
53	ツグミ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
54	ウグイス	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
55	オオヨシキリ	○	○	○	○	○			○	○	○	○	○	○	○			○	○				○			
56	メボソムシクイ			○	○	○		○	○		○			○			○	○								
57	エゾムシクイ				○	○	○	○	○		○	○														

No.	種 名	H12	H13	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6
58	センダイムシクイ	○	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○			○	○		○	○			○	○	○	○
59	セツカ	○	○			○		○														○	○	○	○	○
60	キビタキ		○			○			○		○	○	○	○	○		○	○	○	○	○	○	○		○	○
61	オオルリ	○	○	○			○	○	○		○	○		○	○		○	○	○	○	○	○	○	○		
62	サメビタキ				○												○									
63	エゾヒタキ			○					○		○		○				○	○	○				○			
64	コサメビタキ	○	○				○		○	○	○	○	○			○	○	○	○		○		○	○	○	○
65	ヤマガラ					○						○		○			○									
66	シジュウカラ			○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
67	メジロ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
68	ホオジロ		○						○		○	○			○					○				○		
69	カシラダカ								○	○	○							○	○	○						
70	アオジ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○		○	○		
71	クロジ						○																			
72	アトリ				○																					
73	ウソ																				○					
74	カワラヒワ	○	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
75	イカル				○	○				○	○												○			○
76	シメ		○	○	○				○	○	○	○	○	○	○			○	○		○					
77	スズメ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
78	コムクドリ	○									○							○	○		○					
79	ムクドリ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
80	カケス								○			○														
81	ハシボソガラス	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
82	ハシブトガラス	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
83	コゲラ																			○	○					
84	ホトトギス																				○				○	
85	コチドリ																				○	○				
	観察種数	34	38	37	41	40	43	36	45	41	52	49	36	36	31	31	39	42	47	37	41	35	38	39	36	34

● 資料5 植生のコドラート調査結果

調査日：R 6/7/19

場 所	種 名	総合優占度
森北<A>	フジ	2
	ヤブツバキ	2
	ヤブニッケイ	2
	アケビ	
	ジャノヒゲ	
	カラスウリ	
	ヤブラン	
	カキドオシ	
	チヂミザサ	3
	ムクノキ	
	エノキ	
	イボタノキ	
	サンゴジュ	
	クサギ	
	アカメガシワ	
	マンリョウ	

場 所	種 名	総合優占度
森西	ノイバラ	4
	サネカズラ	1
	ヤブニッケイ	3
	シャリンバイ	
	ヤブツバキ	
	イヌマキ	
	マンリョウ	
	ネズミモチ	
	フジ	
	アオキ（フイリ）	
	ジャノヒゲ	
	センリョウ	
	アカメガシワ	
	アオキ	

調査日：R 6/9/15

場 所	種 名	総合優占度
森北<A>	ヤブツバキ	2
	フジ	
	ジャノヒゲ	
	ヤブラン	
	エノキ	
	アカメガシワ	
	カラスウリ	
	チヂミザサ	
	クサギ	
	マンリョウ	
	サンゴジュ	
	ケヤキ	
	イワヒメワラビ	
	アオキ	

場 所	種 名	総合優占度
森西	サネカズラ	2
	ヤブニッケイ	3
	フジ	
	シャリンバイ	
	ヤブツバキ	
	イヌマキ	
	ジャノヒゲ	
	アオキ（フイリ）	
	ネズミモチ	
	アカメガシワ	
	マンリョウ	
	アオキ	

調査日：R6/10/6

場 所	種 名	総合優占度
森北<A>	アケビ	2
	フジ	
	ヤブツバキ	
	ヤブニッケイ	
	アカメガシワ	
	チヂミザサ	2
	ジャノヒゲ	
	ケヤキ	
	ヤブラン	
	カラスウリ	
	エノキ	
	マンリョウ	
	クサギ	
	カキドオシ	
	イワヒメワラビ	
	アオキ	

場 所	種 名	総合優占度
森西	ヤブニッケイ	2
	アカメガシワ	
	サネカズラ	2
	ヤブツバキ	
	ネズミモチ	
	シャリンバイ	
	フジ	
	イヌマキ	
	ジャノヒゲ	
	マンリョウ	
	アオキ (フイリ)	
	アオキ	

調査日：R7/2/9

場 所	種 名	総合優占度
森北<A>	ヤブニッケイ	2
	ヤブツバキ	
	ジャノヒゲ	
	フジ	
	ヤブラン	3
	カクレミノ	
	カキドオシ	
	クサギ	
	イボタノキ	
	クスノキ	
	サンゴジュ	
	マンリョウ	
	イワヒメワラビ	
	ヤエムグラ	

場 所	種 名	総合優占度
森西	ヤブニッケイ	2
	サネカズラ	
	ネズミモチ	2
	イヌマキ	
	ジャノヒゲ	
	マンリョウ	
	シャリンバイ	
	フジ	
	アオキ (フイリ)	
	センリョウ	
	ヤブツバキ	
	アオキ	

総合優占度 (Artemachtigkeit) について

- 5：その植物の被度が調査面積の3/4以上を占めている。個体数は任意。
- 4：その植物の被度が調査面積の1/2～3/4を占めている。個体数は任意。
- 3：その植物の被度が調査面積の1/4～1/2を占めている。個体数は任意。
- 2：その植物の被度が調査面積の1/10～1/4を占めている、またはそれ以下であっても個体数がきわめて多い。
- 1：その植物の被度が調査面積の1/10以下であるが、個体数が被度のどちらかが高い。
- 無印：低被度で個体数もわずかである。(＋で表記することが多い。)

令和 6 年度岩倉市自然生態園生きものの生息調査報告書

発行 岩倉市 市民協働部 環境政策課

T E L 0587-38-5808

E-mail kankyouseisaku@city.iwakura.lg.jp

調査報告 岩倉ナチュラリストクラブ

会長 福岡 澄江

発行年月 2025 年（令和 7 年）3 月